

それはどうして生まれたのだろうか

僕は死とは何かが、うっすらと、わかる気がする。

死ぬとは 僕の体が いろいろな物質に
分解される段階である。

僕が生まれる前は 僕の体は
いろいろな物質として 存在していた。
死ぬとは 再び その状態に戻る事である。

しかし、僕も こうして
人間として生まれて 来たのだから、やはり、
なにか 生きがいを 感じられる状態で
生きて 行きたい。

生き物の本質は 生きること。

子孫を 増やして、増殖し、
その生活に、幸せを 感じることに。

でも、この広い宇宙に、増殖しない、
さびしい、孤独な、一個の固体だけの、
一匹しかいない、生物も いるだろうか。
それは どうして 生まれたのだろうか。

増殖しない生命、それには寿命もなく、
死ぬこともない、孤独な生命体だ。

僕の頭は あちこち 考えが 飛びかっている。
気が遠くなり、寝込んでしまう。
とりとめもないまま、いつの間にか、眠くなる。
眠い。